

仲間とともに
その34

いじたて 茶友会



1月23日、教育課生涯学習係主催の「茶道教室」をサポートした会の皆さん

「30年程前、山津見神社のお祭りで抹茶をいただき、作法を知っていた方がいいと感じたのが始まり」。会の代表、長正増夫さん（大久保・外内）は、急速その抹茶を出してくれた故。久米園枝さん（佐須）に茶道を習い始めたそうです。その輪が「いじたて茶友会」の活動につながりました。「規約などない、ゆつたりしたつながりです」。避難後もイベント等の機会でお茶を振る舞うことがあります。この日は茶道教室で、参加者が作法やお点前を体験しました。「練習の機会が今はなかなか」と話す会員の皆さんも、交

活動データ

- 避難前は月に1度、山津見神社に集まりお茶を点て、茶道を学んでいました。
- 現在は、2か月に1回程度、福島市・伊達市・南相馬市など、メンバーの避難先自宅に集まります。



1/16

菊池製作所 河北文化賞を受賞

操業継続をバネに被災地の復興を牽引



一刀雅彦理事長から表彰状を受け取る菊池社長

震災当时、村内に営業所と6つの工場を持ち、現在は川内村や南相馬市などでも事業を展開する菊池製作所（本社・東京都八王子市）が、第65回河北文化賞を受賞しました。この賞は河北文化事業団が、東北のために貢献した個人・団体に贈るもの。今年度は推举を受け

た40の個人・団体から、2名・2団体が受賞しました。
仙台市内で開かれた表彰式には、菊池功社長が出席。あいさつに立ち、対策を講じて操業を継続した経緯や、被災地での新規事業について語り、謝意を述べると、会場は大きな拍手に包まれました。



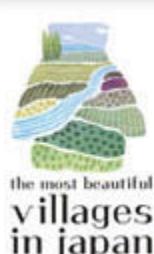
川内・一本松・南相馬における展開ができるよう、工場を残すことことができたから。村と村民の皆さんに深く感謝しています。また従業員の力があつたから」そだとも思っています。

飯館村の出身でもある菊池功代表取締役社長

表紙

菊池製作所 入社一年目の垣やへ

村内で操業を続ける菊池製作所。復興の最前线を照らす笑顔です。隣の記事もご覧ください。



飯館村は「日本でも最も美しい村」連合に加盟しています。